

実効性の高い避難訓練の在り方

小中合同で行う避難訓練

札幌市立北白石中学校

1 ねらい

- ・ 小学校と中学校の合築校舎であることから、小学生と合同で、中学校体育館へ避難する場合を想定し、避難経路に従い、安全かつ迅速に避難できるようにする。
- ・ 放送を最後までしっかり正確に聞いて避難できるようにする。また、無言で指示に従い、落ち着いた集団行動ができるようにする。

2 想定する災害等

- ・ 災害の種類
火災
- ・ 発生時間
13:30頃
- ・ 発生場所
給食室より出火



(小中合同場面①。中学校体育館)

3 避難訓練実施のポイント

- ・ 合築校舎のため、万が一の災害時には、小中学校の児童・生徒（約1500人）が避難することが考えられる。今回は中学校体育館への避難を設定した。ただ、グラウンドへの避難の場合や、各校がそれぞれ指示する場所への避難も考えられる。日頃から避難経路を確認しておく必要性に触れる良い機会ととらえている。



(小中合同場面②。中学校体育館)

4 児童・生徒に指導する内容

- ・ 放送は最後までしっかり聞く。
- ・ 教室の窓は閉め、戸は開ける。
- ・ 廊下や体育館での並び方は、担任の先生の指示に従う。
- ・ 本当の緊急時の緊張感をもって行動する
- ・ ハンカチを口にあて、おしゃべりをしたり、ふざけたりせずに速歩で避難する。
- ・ 階段では上の階の避難を優先させる。
- ・ 体育館に集合後、委員長はすぐに人員確認し、担任の先生に報告する。人員確認後、担任の先生の指示で腰をおろす。
- ・ 私語はしない。
- ・ 先生方の話をしっかりと聞く。
- ・ 靴の紐は普段から結んでおく。

5 教職員の動き

- ・ 実施要領で提示される役割分担、人員確認の流れ等に従い動く。
- ・ 児童生徒が、無言で指示に従い、落ち着いた集団行動をとれるように、普段の生活指導を意識する。



(中学校単独での避難訓練場面。中学校グラウンド)

6 その他

- ・ 児童生徒だけの避難訓練ではなく、教職員の訓練でもある。避難訓練の実施要領で確認している役割分担等が、いざという時に確実に行動できる体制の確立を目指したい。
- ・ 小中学校が合同で行う訓練は、現在のところ年1回の実施である。避難場所の設定変更等の工夫をしながら継続していきたい。また、お互い学校独自の訓練を数回行っている。火災だけではなく、地震も設定し、地震時の対応も指導している。